

東北地区本部第38回定期大会開催



8月29日(火)、秋田市内において開催し、執行部を代表して挨拶に立った小笠原委員長は、「連日の極暑・猛暑の中、安全安定輸送に感謝を申し上げる。7月に発生した秋田市や五城目町を中心とした大雨では多くの家が床下床上浸水し、組合員の車が一台水没してしまった。ここ数年、東北地区においても甚大な災害が続いており、まずは『命を守る行動』をお願いしたい。

安全においては、ご家族・ご同友が悲しむ死亡労災は絶対に『起こさない』『起こさせない』を念頭に置き、「安全は人命を守ることを強く意識し作業をしてもらいたい。

会社の状況は非常に厳しく、回復傾向の兆しが見えてこない。JR貨物が復活するためにも、今後どのように成長・変革していくかを共に考え、労使が一体となってこの難局を乗り越えていく。

政策課題では、2024問題・アポルール改定・北海道新幹線札幌延伸・鉄道強靱化と山積している。2024年問題はJR貨物にとって大きなチャンスであり、JR連合・本部と共に取り組んでいく。北海道新幹線札幌延伸は、鉄道貨物輸送日本海ルートに大きな影響を及ぼす可能性もあり注視していきたい。

最後に、組織課題だが、現状を強く受け止め、あきらめることなく取り組んでいく」と述べられました。その後、執行部より今後の運動方針(案)が提起され、質疑応答後、執行部からの集約答弁し、すべての議題が満場一致で承認され、小笠原委員長の「団結ガンバロー」で大会を終了しました。

